

## 第 11 回 Pacific Rim Yacht Challenge 2010 in CANADA に参加して

館山外洋ヨットクラブ (TOYC)

鶴木 賢治

2010 年 6 月 4 日に 3 名はデルタ航空で、17 名はエアカナダで成田空港から出発しました。カナダ・ブリテイッシュコロンビア州・ヴィクトリア (バンクーバー島) のロイヤルヴィクトリアヨットクラブの立派な玄関前に着きました。クラブハウスでビールを飲むうちにそれぞれのホストファミリーに紹介を受け、自宅へと案内されました。今回はロシアが不参加のため 5 カ国で行うことになりました。主催国カナダ CAN・アメリカ USA・ニュージーランド NZL・オーストラリア AUS とわが日本 JPN です。

5 日は体慣らしと、準備・買い物・見物であつという間に過ぎてしまいました。

6 日は三々五々にクラブハウスに集まり各国選手と挨拶を交わし、ビールで歓談しました。午後 4 時からオープニングセレモニーが始まり、各チームから挨拶とヨットクラブへのプレゼントが贈られました。日本は高橋さんが金丸館山市長の挨拶文を代読しました。読み終わるとクラブのコモドアから「丁重なるご挨拶を頂戴し感謝します。しかし、ご本人がお見えになられたならもっとすばらしかった。」との言葉に、クラブ中がどっと盛り上がりました。6 時からは BBQ パーティーが始まり、いろいろな料理が出されました。飲み物は自前です。大いに盛り上がったところでホストファミリーのお迎えが来て、順次引き上げました。7 日は 9 時からブリーフィング。使用艇は Cal20 と J80 です。J80 は 2 m のバウスプリットが飛び出し、大きなジェネカーを使ってジャイブするので、20 分以上にわたって取り扱いの講習がありました。Cal20 は選手 3 名、J80 は選手 4 名と艇のオーナーの 5 名の乗艇です。くじ引きで乗る順番が決まりました。会場でランチを受け取り、10 時半くらいからそれぞれ割り当てられた艇で艀装し、終わった艇から順次出港します。港外でセールを揚げ走らせて調子を見る。風が結構吹いており、ジェネカーを揚げると飛んでいくようだ。ジャイブの練習をしてスタートラインへ帰る。第 1 レースのスタート 12:30 までいくら時間がないので大急ぎでランチをとる。

第 1 レース、風は SSE・20~25kt 本部船にスピンの旗が揚がる。風も潮も複雑で難しい。先のスタートは Cal20 で、5 分後が J80 となる。さて Cal のスタート、オールフェア。うまく走って 1 位 USA ・2 位 CAN に続き 3 位でフィニッシュ。J は 1 位地元 CAN に続いて USA を押さえて 2 位でフィニッシュ。好調な滑り出しとなりました。

第 2 レースも風はシフトするし、潮も流れは速い中での戦いとなり、Cal は 4 位でマーク回航の時にスプレッダーが破損しリタイヤしましたが、さすがヨット先進国、本部の指示で即刻代替艇が用意され、しかもレース後の救済要求の審議で 4 位が認められました。J はうまくスタートし、コース取りも良く 1 位 CAN に続き 2 位でフィニッシュできました。3 位は NZL・4 位 USA でした。

第 3 レースは、Cal は JPN が代わりの艇を待っているの、J が先のスタートとなりま

した。25kt ほどのシフティーな風の中でのレースもスタート・コース取りもうまく、CAN には押さえられました。2 位でフィニッシュしました。Cal も USA・CAN に続いて 3 位でフィニッシュとなかなかの成績でした。レース後クラブの芝生の庭のテーブルでビールを飲んでいると、USA のキャプテン・ジョーがやってきて、「4 年前のニュージーランドでのレースで、私からのプロテストで DSQ になりまいったので、今回プロテストする」と言う。コミッティーでの審議に当事者のほか 5 名の証人が呼ばれましたが、却下となりました。結果、JPN は 3 レースとも 2 位となりました。1 日目は 1 位 CAN (9) 2 位 USA (14) 3 位 JPN (16) 4 位 NZL (23) 5 位 AUS (29) となりました。

6 月 8 日 (火) 北よりの風、3~5 kt

第 4 レース 新たな艇に乗り換えてのレース、J はジブを揚げたら、リーチが 70 センチほど切れているので、オーナーが VHF で本部に連絡を取り、代わりのジブを要求、来るまで延期となりました。Cal はすぐレースのスタート。USA・CAN・NZL・JPN・AUS の順でフィニッシュ。Cal はすぐに第 5 レースのスタート、CAN・USA・NZL・JPN・AUS となりました。ようやく代わりのジブが届き、J の第 4 レースのスタート、微風の中どたばたのレースとなり、CAN・NZL・USA・AUS に続き 5 位に落ちました。

第 6 (Cal) 第 5 (J) レース、同じコンディションの中でスタート。風は定まらず、潮は速くしかも入り組んでおり、少しの油断で結果が変わる神経質なレースとなりました。Cal は CAN・NZL・USA・JPN・AUS の順でフィニッシュ。J は CAN・JPN・NZL・USA・AUS と何とか落ち着きを取り戻しました。

第 7 (Cal) 第 6 (J) レース、Cal は艇を Long shot に乗り換える。風が変わり、コースを打ち直してスタートする。JPN は 2 上へのタックの位置が非常に良く 1 位。以下 CAN・USA・NZL・AUS の順。JPN がトップフィニッシュしたので大騒ぎとなる。J は CAN の強さ、うまさは群を抜いており、全く付け入る隙もなく 1 位。以下 USA・AUS・JPN・NZL の順でフィニッシュ。J はここで艇を乗り換えます。風はますます不安定で、本部船は風待ち状態なので、ここでランチを食べました。

第 8 (Cal) 第 7 (J) レース 風は北よりから東よりへとさらにシフトする。コースを打ち替えてのスタートとなりました。微風の中で、USA の 130kg の巨漢スキッパーは苦戦を強いられており 5 位に沈む。その中でなんと JPN が再度トップフィニッシュを果たす。以下 CAN・NZL・AUS・USA となりました。J は、1 上手前で AUS を下からラフし、くんだり NZL をスターボーでバウスプリットを引っ掛けると言う忙しいレースをしてしまい、5 位に落ちてしまい、不調な 1 日でした。フィニッシュは CAN・USA・NZL・AUS・JPN の順でした。クラブに戻り、ガーデンでビールを飲んでいると、Long shot の女性オーナー・Margaret Long さんが来て、ご自分の艇で JPN チームが 2 度もトップを取れたことを、大変喜んでくれました。よかった、よかった。

2 日目を終了し、Cal が 8 レース、J が 7 レース消化出来ました。ここまでのトータルでは、1 位 CAN (21)・2 位 USA (39)・3 位 JPN (46)・4 位 NZL (51)・5 位 AUS (67) と

なり、CAN チームの際立った強さと JPN チームの健闘が光っています。

6月9日(水) レイデイ それぞれホストファミリーに案内されて、観光に買い物にと時間を使いました。5時にクラブに集合しクラブレースに参加しました。各レース艇に分乗してレースを楽しみました。小柄な女性でもちゃんとピットをこなしており、ヨット文化を再認識しました。その後はガーデンパーティーで大いに盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。

6月10日(木) 南南西 3~5kt そよ風なので潮に注意しなければ。

第8(J) 第9(Cal) レース Jが1レース少ないので先のスタートになる。出だしからCANを抑えてのスタートで、コース取りもうまく行きましたが、放してしまったAUSに走られまたもや2位に。以下CAN・USA・NZL。何とかCANに一矢むくいました。

Calはこの日もCANの2位と健闘しLong shotとの相性の良さを見せました。以下AUS・USA・NZLの順でフィニッシュ。

第9(J) 第10(Cal) Calは艇を乗り換えてのレース。

JはスタートからCANとUSAを抑えて好調な滑り出し。潮・風の振れ・ボートスピードの速さ・のぼり角度で、ちょっとしたミスでも順位がすぐ入れ替わる。特にCAN・USAが意識して絡んでくる。JPNも進歩したものだと思う。フィニッシュはCAN・AUS・JPN・NZL・USAの順。USAのジョーはJPNを意識しすぎのように見受けられる。

Calは少し風が上がって5~8ktの中でスタート。潮は相変わらず速くそして回っている。3位で上を回るが、スピンランで抜かれる、残念。CAN・USA・NZL・JPN・AUSの順でフィニッシュする。トータルでUSA・JPN・NZLが大混戦になっている様子。

第10(J) 第11(Cal) Jは艇を乗り換えてのレース。

JはスタートでCANを追い出してベストのスタート。潮は20mほどの幅で方向が変わっている所もあり、間違えると即逆転となるので、全く気が抜けない。岸よりのコースが潮が多少弱く風が上るようなので、ポジションの取り合いが激しい。場所によっては、3艇身で軽くひっくり返る。NZLがうまく走りトップ、以下CAN・USA・JPN・AUSの順でフィニッシュする。しかし、スタートの時点でJPNもフライングしていたとのことでOCS、無得点となりました。

CalはUSA・CANと競り合いながらもうまく潮と風を拾って3度目のトップフィニッシュを果たす。やったね!!村上ヘルムいわく「斉藤タクテイションのおかげです。」以下USA・CAN(今回、この艇のヘルムスマンは車椅子に乗る方で、ヨット文化の広さを感じました。)・NZL・AUSの順でフィニッシュ。

第11(J) 風が上がり10~15ktになる。スタート良くCANを抑えてトップで飛び出す。USA・NZLに絡まれて順位を落とす。観戦の北村いわく「全くトップを維持できないんだから」と後でのきつーい一言。しかし負けて入れられません。気を取り直し、集中・集中。上りでよく潮を見て、ポジションの取り合いの中、風の触れを掴み2位に上がる。後続のNZL・USAの攻撃を抑えきり、CANに続いて2位フィニッシュ。以下NZL・USA・

AUS の順。

第 1 2 レース 午後になり風が 20kt を超えてきて、本部船にスピン禁止の旗が揚がる。

Cal は AUS 以外の走りあいになり、海況をよく知る CAN がやはり強い。NZL・JPN・USA・AUS の順で、AUS は 5 位が定位置になってしまいました。

J は 1 上を 2 位で回航、NZL を追う。と、CAN・AUS が禁止のはずのジェネカーを揚げて飛んでいく。本部船からの VHF での連絡でジェネカーを降ろし 7 2 0 度回転するが、CAN はしっかりと我々の前に出ている。ずるいなー！！でも、プロテストはもうしないと決めていたからいいや。結局 CAN・NZL・JPN・AUS・USA でフィニッシュ。

1 2 レースを終えた時点での国別成績は、1 位 CAN (25) 2 位 JPN・USA(53)

4 位 NZL(60) 5 位 AUS (82) です。2・3・4 位は最終日の勝負となりました。

6 月 1 1 日 (金) 南西の風、3~8 kt と振れが大きい。風待ちの状態です。

第 1 3 レース 5 kt を超えて安定してきたところでスタートする。

Cal はスタートは悪くはありませんが、トリムが安定せず走り負けしてしまいました。1 位 NZL 以下 CAN・USA・JPN・AUS の順。

J はスタート良く走るが、USA が猛烈に迫ってくる。戦うしかなく、受けてたつ。CAN も我われを意識して抑えようとしてきており、上りのスピードは負けないものの、ジェネカーでの走りあいで抑え込まれてしまった。CAN・NZL・USA・JPN・AUS の順。くやしい。

国別では 1 位 CAN (28)・2 位 USA (59)・3 位 JPN (61)・4 位 NZL (63)・5 位 AUS (92) となりました。

第 14 レース 相変わらずまばらな風の中でスタート。

Cal は中団でのスタート、岸よりのコースをうまく引くが、敵 (そうです、敵なんです) も必死に抑えに来て放さない。トリムがまだうまく決まらず走り負けが続く。少しの油断が順位に直結するなかで、NZL が最後の頑張りを見せてトップフィニッシュ、以下 CAN・USA・JPN・AUS となりました。

J はスタート良く飛び出すが CAN は面子に掛けて負けられない。USA も負けたくない気持ちを出しにしてなりふり構わず競ってくる。JPN とて負ける訳には行かない。しかし、ジェネカーでの下りで、走り負けしてしまう。おまけに放してしまっている AUS が前にいる。とにかく USA と NZL は抑え込まないといけない。結果は CAN・AUS・JPN・NZL・USA でした。一応は成功でした。このレースを終えての国別成績は、CAN (31)・USA(67)・JPN・NZL (68) AUS(99)です。とにかく 1 点差で 2・3・4 位の競り合いなのです。

さて最後の第 15 レース 風も潮も難しい中で、まず Cal がスタート。岸よりの潮をよく読んでうまく前に出る、しかし地元の CAN はさらにその上に行く。ともかく 2 位をキープしてフィニッシュ。よく頑張りました。

J はスタートからトップで USA と CAN の追撃を振り切り悠々トップ 1 上を回航、ジェネカーの勝負で USA にまたしても内を取られ、下マーク 2 位ながら無理をした為ジェネカーが降りず 3 位に。上りは USA との勝負、NZL ははるか後方にいる。3 下はフィニッシュ

なのだが、気合の入りすぎた USA が 4 回目の上りに入りました。「えー、もう 1 回」と声を掛けながらもとにかく詰め上がる。準備が悪く流れてマークを回航しましたが、うしろの NZL がジェネカーをシバーさせたままふらふらしていると、ホーンが鳴りました。「やっぱりフィニッシュだ」すぐジャイブしラインに向かう。CAN も素早くジェネカーを揚げて反転してくる。JPN も「ジェネカー揚げ」とクルーが素早く動いてラインに向かい、フィニッシュ。USA は意地でも 4 上を回航してフィニッシュ。空回りしてしまったのかな。NZL・JPN・CAN・AUS・USA の順でした。

すべてが終了しての最終成績は、1 位 CAN (34)・2 位 NZL (72)・3 位 JPN (72)・4 位 USA (76)・5 位 AUS (108) となりました。

\* 2・3 位はタイブレークで上位をより多く取ったチームが 2 位

色々有りましたが、ともかく楽しい 15 レースでした。運営の方々をはじめ、お手伝いしてくださった方々、このイベントに携わられた方々すべてに深く感謝したいと思います。有難うございました。そしてお疲れ様でした。

次回はオーストラリア・ポートステイブンスと決まりました。頑張りましょう。

以上